

読賣新聞

令和3年2月3日

読賣新聞 22面（地域）で掲載していただきました。

ありがとうございます。

四国 遠近

香川

「長く愛される本作りを」 作家佐々木さん 出版社創業

宇高員経験のある作家の佐々木直さん（香川・高松市）が、出版社「万葉社」を創業し、主に四国内の歴史などの本の出版に向けて準備を進めている。新型コロナウイルス対策の国の特別定額給付金の協力を生かす、株式会社設立を決断した。「1000年経たない本を作り続けるように、長く愛される本を作りたい」と意気込む。



「地方で本の出版を考える人の力になりたい」と話す佐々木さん（高松市で）

の出版経験を持ち、その延長で、歴史の歴史を紹介する文芸書も作りたい。なすも書局の出版から上梓し、作家としての

も活躍している。執筆活動の中で、香川のことを知らない東京の編集者とのやり取りでは、業界を感したという。「香川の本を作るには、県内に書を読んだ編集者が必用」との思いが燃えた。編集はコロナ禍だった国の特別定額給付金が支給され、使い道を考えた時、地方向けの本を出版社の

設立を思いついた。「カフェを開きたいなどの夢を諦めたけれど、諦め切りがつかない人も多い。でも、書くことも、地方で夢をかなえられることを伝えたい」。社名は、元時代小説の由来となった万葉集にちなみ、万葉社と決めた。昨年8月に創業し、オフィスは文楽・楽楽の母校の跡地を利用した四国1スクエア（高松市東町の一角）に構えた。

宇高員として経験を積み、たつたハツを生かす。紙の質やデザインの違い、文庫の校訂やマーケティングなどを多く引き受ける。すでに作品などの出版の相談を受け、「本を作りたい」という人はいる」と改めて実感した。「万葉集の作品集や、四国内の歴史についての書籍など、地元関係の本を創業に出版できる会社を目指し、若い人の夢を応援したい」と意気込みを語る。